

伊賀市夢のある農業振興計画タウンミーティング会議録

1. 開催日 令和8年7月11日（土）午後2時30分から午後4時37分
2. 場所 伊賀市ゆめぼりすセンター2階 大会議室
3. 出席者 野中章久、森下光子、泉川道子、山田長生、川瀬成清、中林有美、吉田具示、桃木弘美、松裏充彦、村山邦彦、株式会社フジヤマ（7名）、参加者32名
4. 事務局 稲森市長、堀川産業農林部長、福山産業農林部理事、吉福農業振興課長、山添農業振興課主幹兼農業政策係長、藤森農業振興課主幹（農業政策担当）、半田農業振興課農業振興係長、木澤農業振興課主査、大谷農業振興課主事
5. 案件
 1. 開会
 2. 「伊賀市夢のある農業振興計画」について
 3. ワークショップ
 4. グループ発表・共有
 5. まとめ
 6. 閉会
6. 会議の次第（午後2時30分 開催）

（吉福農業振興課長）

みなさん、こんにちは。本日は、「伊賀市夢のある農業振興計画タウンミーティング」を開催させていただいたところ、たくさんの方にご参加いただきありがとうございます。

市では、市の将来の農業振興の目標や基本方針を明確にし、その実現に向けて取り組む方策を示す「伊賀市夢のある農業振興計画」の策定を進めており、令和8年12月の完成に向けて鋭意取り組んでいるところです。

今回のタウンミーティングは、「みんなで考えよう！伊賀市の農業の未来」と銘打ちまして、農業に関わる方はもちろん、学生の方や消費者の方など、様々な立場の方が私たちの「食」に関わる想いや課題を共有し、「夢のある農業」について考えていただく機会として開催させていただきました。

それでは、主催者を代表し、伊賀市長 稲森稔尚よりご挨拶をさせていただきます。

（稲森市長）

皆様こんにちは。ご紹介いただきました、伊賀市長の稲森利尚です。

市長に就任をさせていただいて、皆さんと一緒に対話を中心にして、これからの市政を作っていきたいということ。

そしてもう1つは、農業を、これだけ豊かな私たちの伊賀市なので、農業を、農林業を中心としてまちづくりを行っていききたい、そういうことを大きな柱にして取り組んできました。

ですので、昨年度ですね、夢のある農業振興計画の検討委員会が立ち上がって、野中先

生にも大変お世話になって、今日たくさんの委員の皆さんもお見えですけれども、様々な立場の皆さんが、本当に深い深い議論をこうやって重ねてこられたこと、そして今日、このように多様な多彩な皆さんが集っていただいて、このようなタウンミーティングが開けるっていうこと、本当にうれしく思っています。

大事にしていきたいのは、繋がりの中でこれからの農業を作っていこうということと、農業を、農村地域だけの問題にしないということ、こういうの考え方のもとで取り組んでいきたいというふうに思っています。

これから、ここから農業をしっかりこのまちの力に変えていくべく、今日は有意義な議論の場となることを願っています。

私たちのこの伊賀の農業ってというのは、実に多彩です。丹精込めてつくられる伊賀米ですとか、いろんな野菜とか果物、そして全国に、或いは世界に誇れる伊賀牛といったいろんなブランドがあります。

1つ1つの農業というのは、異なるようでも実はこの豊かな、私たちの伊賀の風土の中で、深く繋がりを持っています。

様々な立場の生産者の皆さんが連携をして、技術や知恵を共有していくことによって、さらに、私たちの伊賀の農産物のブランドは、より強固なものになっていくかと思います。

多様な生産者の皆さんが連携する1つの大きな伊賀の農の輪として、お互いに刺激を合って高めていけるような、そんな環境を作っていきたいと思っています。

そしてもう1つは、農というのは私たちの食べることに大きく関わっている、或いはこれまでの食文化ということにも大きく関わっているということです。

この大切な営みを、特定の誰かのものにするのではなく、伊賀のまち全体で支えていきたいと思っています。

農村だけではなく、市街地に暮らしている皆様も、都会に暮らしている皆様も、地元の食材を選び、伊賀の食材を選んで、その背景にある、生産者の皆さんが持っている情熱とか物語、ストーリーを知る。そして、生産者の皆さんは、消費者の皆さんのお顔を見ながらモチベーションがさらに高まって、ニーズにこたえた農産物を作っていきたいという意欲に繋がっていく。こういう顔の見える繋がりっていうことを大切にしていきたいと思っています。

農村地域と市街地、まちとむら、城下町と農村、こういう垣根を超えることによって、私たちの暮らしを守るコミュニティを作っていくっていうことにも進化をさせていきたいと思っています。

そして、情熱だけでは地域を守っていくことはできません。持続可能な農業を進めていくためには、しっかりと稼ぐ力をつけていくということも、極めて重要だと思っています。

多様な農業者の皆さんが連携をして、消費者の皆さんに支持をされる。そして、若者が夢や希望を持って農業に挑戦をしたいと思えるような、そんな環境を作っていきたいと思っています。

本日の対話に向けて、今の農業は様々な課題に直面しているかもしれません。しかし、本日のこのタウンミーティングを通じて、それぞれの課題を皆さんの繋がりの中で、そして熱い議論で吹き飛ばしていきたいと思っています。

これから、農業を農村だけのものにせず、市民みんなで支え、まちづくりとして大きく育てていく、そんな第一歩にしていけたらと思います。

私たち伊賀市も計画を作って終わりではなく、これからどんどん新しい施策を打ち出して、農業を中心としたまちづくり、一生懸命頑張っていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私も、今日皆さんの仲間に入れていただいて、一緒に議論できればと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(吉福農業振興課長)

稲森市長、ありがとうございました。

続きまして、三重大学大学院地域イノベーション学研究科の教授であり、伊賀市夢のある農業振興計画策定委員会の委員長にご就任いただいております野中章久様より、計画策定の目的やこれまでの経緯、また計画案の内容などについてご説明いただきたいと存じます。

野中委員長よろしくお願いいたします。

(野中章久委員長)

ご紹介いただきました、野中章久と申します。

農業経済学を専門としまして、三重大学で教鞭をとっているものです。

この中にはですね、今日は調査でお世話になった方々もお見えになっていて、実はちょっと緊張したりなんかするんですけども、普段はですね、農業関係の調査研究で、経済系の研究をしています。

このたび、計画の策定委員長ということを抑せつかりましたので、全力をもって努力してる次第であります。

本日はありがとうございます。タウンミーティングの方ご参加いただきました。伊賀市長からもご挨拶にありましたけども、伊賀市はすばらしい環境を持った地域であるというふうに思っています。僕出身は関東なんですけれども、三重ってすごくいいなっていうところですし、特に伊賀、伊賀ですねいや、なんかこう、ふるさとって、パッと浮かぶところというところなんだろうなっていう、額に入れて展覧会開いたようなところだなっていう感じがしているんですね。

気候としては盆地、山に囲まれていて、ちょっと暑いとか、朝底冷えするとかっていう問題があるのかもしれませんが、穏やかな気候ですし、水源を供給してるような水の大変綺麗なところというところで、自然、よく自然良いとかっていうことはわかってるよって言われるかもしれませんが、僕千葉出身なんですけど、千葉で自然豊かって言うんですけど、そんなとき半分ぐらい、自然以外ないんだよなっていうのもあるんですけど、この

自然がですね、やっぱり農業生産に反映されている、要するに農業と結びつく、非常にいい農産物を育む、恵みの豊かな自然ということもね、重要なところだと思っています。

先ほど市長のご挨拶にあったように、もちろんコシヒカリ、伊賀米ですよ。同じコシヒカリでも全然味が違いますもんね。

伊賀牛、アスパラね、白鳳梨ね、お城の名前をとった白鳳梨、有名ですよ。あと芭蕉ネギとか、大変高品質な農産物を生産しているというところ。昨今ではイチゴの生産が盛んですし、その他、実は僕三重大に来る前に、菜種の担当で、菜種油の関係でお世話になったこともありますけども、そういう特産物、いろんなチャレンジをされているという非常に、もう意気込みも、何て言いますかね、先進的なお気持ちを持っているってところも素晴らしいなど。

自然が豊かだけじゃなくて、やっておられる方々達の情熱とか創意工夫も素晴らしいということ、常々思っております。

特にですね、慣行農業じゃなくて、そこにプラス有機農業をということで盛んですしね。オーガニックビレッジ宣言を行ったりということで、内外に非常に知れている、そういった環境に配慮するということも非常に盛んというところでは、素晴らしい状況、ところだと思っております。

一方ですね、我が国の、実は世界的にもそうなんですけども、農業を取り巻く環境は非常に楽観視できないものがあります。天候的に言えば、気候変動が非常に甚だしいというのがあります。日本国内でもですね、いろんな問題を抱えています。戦後の日本でずっと抱えている問題としては、自給率が低いというのがあって、農林水産省の政策としてもですね、非常に常々努力はしているんですけど実行を結ばない、自給率上がらないという、問題があったりします。

今日御示しています、ご議論いただく計画ですね、この位置で非常に重要な観点があって、今ちょっと僕農水省のって言いましたけども、農業、人間が生きていくために必要なことなので、国を挙げて政策に取り組んでるものですので、国の政策があるわけですね。国の政策は全国民共通の政策として、国の上でやっている。国政というか、このレベルで。

各県の事情がありますから、県のレベルで、やっぱり農業政策が打たれてですね、ダブるところもありますけども、すみ分けがあるということがあります。

市の農業政策という形で取り組まれるということもあるんですね。ただし、ここ市のところでいくと、よく考えないと、県でやっているからっていうところで、なんていうの、ここだったら三重県の中の1つの市町村としてやっていきますよっていうやり方もあるんですけども、それだとやっぱり他の地域と同じ、或いはもう、何ていうか地域独特の問題として取り組むという視点がですね、どうしても弱くなってしまうわけですね。

ですから、今回僕が委員長を仰せつかった基本計画、計画ですね、夢のある農業振興計画を作るということはですね、やっぱりこの市段階の、県とか国にはない視点で組み立てていこうという積極性のあらわれですし、それを実現するための計画だということ、で位

置づいているということをぜひ理解してください。

ちょっとね、挨拶長いんで、こいつ何言ってんだろなみたいな話になるかもしれませんが、千葉はどうしたとか言われても困るぜって話なんです。いやそれは実はだから、県が違うってだけでも大分違う。日本国の広いわけですけども、なおかつ、伊賀市のこの素晴らしい環境を守っていくっていうのは、市の皆さんの目的、意志的な取り組みが重要になってくるという、客観的な条件があるということをご理解いただいて、それに対する1つの答えといいますか、提案を作っているというふうにご理解いただけると、大変うれしく感じます。

ですから、特にですね、例えば農政というか国レベルでいくと、難しい状況はいっぱいありますよね。天候が悪く、要するに雨が当然降るとか、暑いとか、もっと言うと、日本農業全体としては高齢化が進んでいるとかね、自給率低いとか、人口減ってるとか、これはもう農村だけじゃないですけど、人口減ってるとかという問題があります。

こういうふうな問題に対して、国は例えば農業に関して言うと、2年前ですかね、食料・農業・農村基本法というのを作って、全般的に農業だけじゃなくて、農村を何とかしようよっていう法律を作ったりしているんですけども。ただしですね、さっき言ったようにそう簡単にはうまくいかないところがあるわけですね。

ということは、全体的に経済でいくとですね、高度経済成長みたいに、その当時みたいに人口が増えていて、経済ばんばん拡大してるぜっていうときは、ある種何やっても失敗ないんですよ。乗っかってけばいいんですよ。

で、今は逆ですね。縮小をするプロセスにあるんですね、残念ながら。人口は減る。日本経済なかなか上手くいかない。というところで、この伊賀の素晴らしい環境、或いは自然と結びついた、経済行為としての農業を残すっていうこと。

プラス、この伊賀市全体をエリアとして網羅してる農村の暮らしぶりとか、或いは農村にいた人だけではなくこの環境にいるということはもう、農家さんがその作業していただいているってところを共有化しているわけですから、ここを守っていくということは、勿体つけた言い方をすると、その自治としての営みですよ。これの重要性が高まってきているということがいえると思います。

今回、今中途段階ですが、我々今まで5回ぐらい委員会開いて、委員さんにご議論いただき、たたき台を練り上げている段階です。中途段階でお見せするのは、今言ったように、皆さんの、今まさに難しい状態にある中で、自治こそが重要であるということの実践として、皆さんのご意見を広くいただいてですね、計画に反映したいということですので、どうか積極的なご議論にご協力いただけると、大変助かりますといいますか、いいものになっていくと確信いたします。

言いましたように、農業生産、当然経済行為なんで、できるだけ経済、俗に言えばお金稼いでもらわなきゃいけないんで、ブランド化を進めていく、どうやってお金をより多く稼ぐ、或いは回すっていうところの観点が1つ。

これはちょっと、国とも関係するので、もしかしたら、農家さんの立場から見るとちょっと米の話が少ないんじゃないかって言われるかもしれませんが、最初に言ったように、国のやっていることとダブること書いてもちょっとしょうがないんで。そこは、国がありますよねってところはあまり触れてないっていうこと、そういうような内容になっていることをご理解いただきたいというふうに思います。

一方で、それはもちろん中心的な課題として考えています。

同時に、他のものもうまくまわしていくこと、計画として考えていますし、あわせて、今度は生活面で、農村の快適さなり、その豊かさをどうやって今後守っていくかと、或いはもっと前に進めていくかという観点から、生活面に関する計画をですね、計画の中に入っています。

そういう意味では、今日ご参加されている方の中には、農村に住んでないんだけどねって方もいらっしゃると思いますけども、もちろんそういう方にも共有していただけるような観点の計画の中身になっていますので、それぞれのお立場で積極的にご議論いただければというふうに思います。

僕の挨拶としては以上になります。

本日は、どうぞよろしくお願いします。

(吉福農業振興課長)

野中委員長、ご説明ありがとうございました。

それでは、これからワークショップの方に進みたいと思います。

ワークショップにつきましては、計画策定業務をお手伝いいただいております、株式会社フジヤマ様において進行していただきますので、フジヤマ様どうぞよろしくお願いしたいと思います。

(株式会社フジヤマ)

ワークショップの進行を務めます、株式会社フジヤマと申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それではワークショップの進め方について説明させていただきます。

お手元のタイムスケジュールにも書いてありますが、本日は皆様にテーマに沿って意見交換していただきたいと考えております。

まず、それぞれのテーマ始めるとき、意見を交換する前にですね、考える時間をとりますので、それぞれのテーマについてご自分の意見を考えていただいて、それを付箋に書いていただいて、その付箋に書いたことを皆様に発表していただくという流れで進めていきたいと考えております。

付箋はいっぱいありますので、いろいろ考え思いついたら、たくさん付箋使っていて、たくさん意見出していただければと思うんですけれども、もしできたらですね、付箋に書く内容は1つのキーワード、ちょっと短い言葉を1つの付箋につき1つのキーワードくらいを目安にいただいて、キーワードの説明を口頭で発表していただくって

いう流れで、ワークショップ進めていただければと考えております。

付箋に書いた意見をグループの皆様で意見交換していただいて、ワークショップの最後にグループで話し合ったことを発表してもらうという流れで、本日進めていければと考えております。

ワークショップに入る前にですね、皆さんで楽しく充実した会にできるようにですね、本日様々な立場の皆様がいらっしゃっておりますので、皆さんの意見を尊重して、それぞれの立場、価値観を尊重する姿勢を大事にさせていただきたいと考えております。

誰かが話し終わったら拍手するとか、相手の意見を否定しないとか、あと温かい雰囲気づくりにご協力いただければ幸いです。

そうしましたら、まずテーマ①として、伊賀市の好きなところっていうテーマを挙げております。

本日初めてお会いする方もたくさんいらっしゃると思いますので、まずは自己紹介を兼ねて、アイスブレイクしたいと考えております。

まずですね、伊賀市の好きなところっていうのを考えていただいて、思いついたら、付箋に書いていただいてという流れで進めていきたいと思っております。

それぞれのテーブルにですね、弊社フジヤマの社員と、あと計画の策定委員の皆様がファシリテーターとして入っていただいておりますので、まずはちょっとファシリテーターの人たちにバトンタッチしたいと思います。

そうしましたら、このテーマ①のアイスブレイクの時間を約10分程度とってみたいと思いますので、各ファシリテーターの皆様、進行をお願いいたします。

(午後2時51分 テーマ① アイスブレイク 開始)

(午後3時5分 テーマ① アイスブレイク 終了)

(株式会社フジヤマ)

はい、ありがとうございます。もしかしたらまだ発表しきれてない方もいらっしゃるかと思うんですけども、そうしたら、そろそろ次のテーマにですね、本題の方に移りたいと思います。

じゃあ次ですね、テーマ②は、伊賀市の農業・農村の目指すべき将来像というテーマで、ちょっと話し合ってもらいたいと考えております。

お手元にA3両面で紙があると思うんですけども、こちらが今考えている、伊賀市夢のある農業振興計画の中間案の概要版になっています。

表面にですね、計画の策定目的ですとか、あとは、今考えている、これから伊賀市が目指すべき農業・農村の将来像を書いております。

ちょっとこの将来像について読んでいただきまして、この将来像を実現するためには

こういった取り組みが必要なのかっていうものを、ちょっと皆さんで考えていただきたいなと思っております。

あとまた、裏面にはですね、こちらでも現段階の案ですけれども、伊賀市のこれから取り組んでいくべき、各施策を書いておりますので、こういったものをちょっと参考にしながら皆様で考えていただきたいなと思っております。

大体このテーマ②で40分くらい使ってご議論いただければなと思っております、まずはまた考える時間を、将来像実現のためにこういった取り組みが必要なのかっていうのを5分くらいで考えていただきたいと思っております。

大体付箋に書き終えましたら、また今みたいに、皆様考えついたものを発表していただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

最後にですね、40分の中で話し合っていたら、各グループ話し合っていた内容を、せっかくでするので皆さん全員で共有したいと思いますので、どなたかちょっとグループの中で発表者決めていただいて、議論した内容を発表したいと考えております。

詳しくは、各ファシリテーターに進行してもらいますけれども、そういった形で、大体40分ぐらいですね、3時50分くらいまで時間使って話し合っていたきたいと思います。

では、どうぞよろしくお願いします。また、各ファシリテーターお願いします。

(午後3時8分 テーマ② 伊賀市の農業・農村の目指すべき将来像 開始)

(株式会社フジヤマ)

あと10分くらいで発表しようかなと考えておりますので、大体意見をまとめたりできたらなと思っております。よろしくお願いします。

(午後3時36分 テーマ② 伊賀市の農業・農村の目指すべき将来像 継続)

(株式会社フジヤマ)

あと5分くらいで発表に移る予定です。

意見をたくさん出していただいたので、発表する意見などをまとめていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

(午後3時41分 テーマ② 伊賀市の農業・農村の目指すべき将来像 継続)

(午後3時46分 テーマ② 伊賀市の農業・農村の目指すべき将来像 終了)

(株式会社フジヤマ)

そうしましたら、お時間にそろそろなりましたので、発表に移りたいと思います。

チームの中から発表していただける方を決めていただいて、せっかく意見たくさん紙に書いて出していただいたので、前に貼りながら発表をお願いします。

(牛グループ発表者)

牛グループです。一応こちらの、グループで討議したところです。

好きなところというと、伊賀はやはり水が豊富であったと。このところ温暖化で水がないとか雨が降らないとか言う意見もらったんですが、水があってよかったねとか、自然がある。それと、何でもおいしい。肉、お米がおいしいと。水がおいしい。やはり、それだけ自然に恵まれた伊賀地区を、何とか農産物、米の産地にしたいということで、うちの意見の中では、いわゆる自給自足、いわゆる伊賀で取れたものを伊賀で食べてもらう、自給自足の率をもっとあげようという意見が1つ、意見の中で出てきました。

一番私も危惧しているのは、やはり担い手の確保、だから営農組合さんの後継者の確保とか、市から補助金で何とかそれをもう少し確保できないかなっていう話も出ましたが、担い手確保と儲かるような農業、このところ米が値上がりしたのでありがたいんですけども、来年、今年度の米ですね、もう3ヶ月したら採れるけど、どうなるのかなっていうようなところで、外国では米を作ってる人を公務員として農家が雇うとか、あと小規模のね、農業を維持できる方法、いわゆる大規模の農業と小規模の農業、小規模の農業が生産量こそ少ないけれども、日本の大多数を占めてるので、そこがもっと儲かる農業に施策を変えてもらわないとってことで、横で市長がメモしてくれていたんで、効果があったのかなと思います。

そんなところと、あとだから、儲かるから農業が持続できる、そういう話ともう1つあったのが、いわゆる米作り体験を小学生に見せる。ということは、あれだけ手間がかかっているのか、それなら米もっと安くせよって言えないなあとね、いう意見が出ましたもので、やはり消費者にもっと見に来てもらう。これだけ手間がかかっているよっていうの、そういうところから、それが儲かる農業に反映していくということで、やはり地域一体になって、地域で消費、地域で作るというその生産比率、そんなところを今後何とか考えていけたらなというような意見がいろいろ出ました。子どもたちにもっと農業体験してもらおうと。

あと獣害がえらいよねって話も出ましたがね。獣害とカメムシ。多いです。だから獣害もやっぱり、食べ物がないんですよ山に。そこらももう少し考えていかなあかんのかなっていうことで、うちの発表はこんなところです。

(株式会社フジヤマ)

ありがとうございました。

次ごはんグループをお願いします。1グループ3分ぐらいの目安で発表をお願いします。

(ごはんグループ発表者)

牛さんの後、言いづらいんですけども、ほとんど同じようなことが出ています。

実は私、米を作っております、専業農家というところでございますが、そういう中で、いろんな意見が出ましてですね。目指すべき将来像のどういう取り組みが必要かということで、これらを全部分けますとですね、1つは人の問題。経済活動。環境、景観。生産能力改善ということで、こういうグループにはほぼ意見が集約できています。

人の問題で言いますとですね、やはり人を育てる、先ほど言いましたように人を育てる環境がほんとうに整ってるかどうかということになりますと、やっぱり政府がですね、人をお金を使って、何年か農家に勉強させる、営農組合へ来て勉強させても、4年後5年後にはどこかへいってしまっていないと。こんなばっかりですわ。ですから組織の数が増えても、農業人口は全然増えてない。逆に減ってきている。これが現状でございます。

それをするためにはどうするんだということになりますと、やはり儲かるような、儲かる農業ということに繋がっていくと思います。儲かる。今、米は、去年はえらい高くなっていますけども、今年はえらい下がります、下がるであろうことを言われていますけども。いや、我々が生産してたら、我々で米の値段を決めてないんですよ。全部よその、他力本願というところが、実は問題なんです。スーパーいきますと、同じ値段だと思ったら、中身が小さい。空気買ってるみたいなお菓子がいっぱい売ってます。米はどうかといたら、必ず5キロ30キロ。10キロ。それをいつの間にか、5キロが3キロになったり2キロになってくれたらいいんですけども、そうじゃない。全然決める権限がないということなんです、儲かるようにして欲しい。しかし儲かることができなかったら、どこか援助してくれよと、ということだと思います。

さっきもいわれた、公務員であるとか、市がちょっとお金出してくれよとか、そんな話ですけども。ただそれだけじゃなくて、全体的に、そういう努力は必要だと思います。

ただ、農業というのは昔から、もうかなり何千年も昔からですね、何や言うたら環境を守っているいろんなことをやってきてます。その反動で、最近はそのらでイノシシが出たシカが出た。最近クマが出たと。

昔は山へ行ったりとか、おじいさんが芝刈りでどうのこうのとかいうのが、もともとですね、すべて何をしていたか言いますと、環境を守る。しかし、昔はそれで生活できてましたもんですからね。そこら行ってやっていたらそれで生活できてたものですけど、今は生活できない。そこらを何とか考えなければいけないということで、またこれも経済活動でそういうことをやってもらいたい。こういう話ですね。

それで、先ほど言いましたように、景観であるとかそういうところが非常に農業のウエートが高いもんですから、そこらをやっぱり理解していただいて、先ほど地域内循環と言いましたけども、私としては、オーガニックにどんどんどんどん持っていきたい。やはり良い米を作って、それを子どもらに食べさせたい、孫らに食べさせたい、というふうな思いでございます。

それから、一番簡単にできるのは、それを作ってる人に申し訳ないですが、学校給食すべて米粉に変えよと。こういうのは僕の考えでございます。

米粉で小麦から 100%変えることができます。うちでは米粉しか使っていません。十分、おいしい。体に良いです。そういうことも考えていかなあかんということだと思います。

とにかく、どちらにしましても、多面性であるとかいうことも、ここらでありまして、経済と環境のバランスが、農業というものが担っているということを肝に銘じてですね、いろんな施策を打っていただきたい。

よろしくお願いします。

(株式会社フジヤマ)

ありがとうございました。

(イチゴグループ発表者 1)

こんにちは。僕たちの班は、今現役で農業されている方や、集落営農を組織されている方や家庭菜園を楽しんでいる方。あと女性にやさしいというか、障がい者の方も参加できるような取り組みをされている方や、旦那さんが他界された後も、農業を引き継いでおられる方と様々でした。

皆さんいろんな声があって、もともと家庭規模で農業していたという歴史があって、それ、時代の流れで機械化して、こうなっていったという中で、どうしたら続けていけるのかみたいな中で、儲かる仕組みをどうしたらいいんだというような。ブランド化なのかっていう話が出たりとか、あともうちちょっと、市とか国とかに、もっと農業、金銭的にも、税金をそっちの方に使って欲しいっていう話とか、あと担い手ですね、担い手の人が必要で、そのためにまた住支援っていうか住むところの支援、子育て支援とか、そっちの分野にも必要なんじゃないかっていう話とか、あと魅力発信ですね。中山間地域が結構多いと思うんですけど、そういう地域が水害を防いだりとか、獣害もそこが防波堤になってくれたりとか、そういった面も皆さんに知ってもらって、さらに中山間の役割をもうちょっと市民の人に知ってもらうのも大事なんじゃないかとか、あと農家の権利っていうので、種の権利、種苗のための権利を守る条例をぜひ伊賀市に作っていただきたいなという声もありました。

あとは、声が届く仕組みっていうので、農村と伊賀市の間でたびたびというか、いろんな変化に合わせて、お互いの状況というか、そういうのを伝える場所があったらいいなっていう感じですかね。ちょっとまとめがちょっと苦手をお願いします。

(イチゴグループ発表者 2)

ファシリテーター役として、横で聞いていました。家庭で守る農業が一番理想だった状況が、今、後継ぎがどんどん外に働きに出て、家族ではできない農業世帯が増えてきた。

そして、次は 地域で農業をやってこうとなつて、地域で農業を続けていくにはどうしたらいいかなっていうので、さっきからずっと話ありましたが、儲かる農業にしていくな必要がある。では、儲かる農業にしていくなには、どうしたらいいだろうっていう話の中で、さっきも話しがあったブランド化の話が出ました。

その中でもう 1 つ、消費者の教育っていうか、伊賀にはこんなにすごいものばかり

があるっていうのを知ってもらうために、いろいろ魅力発信が必要だっていう話がありました。

その中でちょっと盛り上がったのが給食センターで、昔は伊賀産品での給食っていうのが定期的にあったが、若干今それが減ってきているっていう話。学校給食に伊賀産品を出すことで、それが子どもに伝わり、もしかするとそれをきっかけにして、伊賀の食材をより深く知って、農業を続けたいと思う子が増えてきたら、始めに話した家族でする農業に戻ってきてくれるかもしれない。10人いれば10人ともそういうことではないでしょうが、学校給食にはそういう効果もあって、ぜひ続けて欲しいという意見もありました。

そういうことでは、家族、地域でやっていこうと思える儲かる農業に必要なことはブランド化で、その情報発信、魅力発信が大切。その魅力発信によって子どもを含め地元の人たちが地元の農業の良さを振り返って、また家族、地域に戻ってくれるといいかなということで、最終的には終わりました。

以上です。

(株式会社フジヤマ)

ありがとうございます。

(ブドウグループ発表者)

ブドウチームの富田といいます。よろしくお願いします。

私たちの班では、まず課題感としまして、今回夢のある農業振興計画ということで話なんですが、その前に現状、今農業、地区の担っている主戦力は70代だということで、ほとんどがもう70代、高齢の方々が担ってくれているというところで、もっともっと危機感を持って進めないといかんということになりました。

夢のあるということで、そういうその危機感の中にも、何かしらこうしたいっていうところが皆さんありまして、たくさん意見が出ました。

大きく分けて3つ、1つ目が担い手対策、今主力の70代、第一次ベビーブームが抜けた後、どれだけ地域に人が残るのか、農業に残るのかというところで、今のままでは絶対だめだということで、新たな人材、若手の農業者であったりとか、1つ特に面白い意見が出たのが、お母さん、女性が参画してもいいんじゃないか。子育てをしながら、旦那さんには兼業で働いてもらって、土日とかに一緒にやったりとかっていうパターンもありかなという話とかも出ました。

あと、若い方が農業を生業として、職業として選択して入ってこれるようにとかっていう意見もありました。

あと雇用を生む大きな農業の他にも、自給的な農業の形があってもいいんじゃないか。特に中山間、区画整備が進んでないところとかでは、そういうふうな自給する農業の形をもっともっとしてもいいんじゃないかという意見もありました。

そしてまたそれを消費者に届けるために、また経済的にも成り立たせるために、またその次の郷土愛にもなるんですけど、そこにつなげるために、理解もどんどんどんどん醸成

させていかないといけない。地域の中で農業体験する機会を持って、子どもから大人まで理解を醸成させたりとか、グリーンツーリズムを取り入れたりとかということも図っていくことが大切で、そういう中で郷土愛をしっかり図っていこう。

郷土愛の中で一番盛り上がったのは、お祭りの話です。地区のお祭りとかが盛り上がっているところは、地元への愛着が強くて、そのまちのために帰ってきてくれたりとか、いうこともあるという話もありました。

なかなか大学、都会に出てそのまま戻ってこないっていうパターンが多い伊賀なのかなというふうにも思ったりするんですが、そういうところで郷土への愛を持ってもらって地域に残る人を増やしていくことが必要なんじゃないかというところが意見がありました。

その他にも、もしですね、その職業として成り立たせるとか、経済として成り立たせるためには、きちんと出口のところをしっかりと決めてやっていく必要があるというところで、地消地産って書いてあるんですが、地元で消費するものを地元で作るという考え。

また学校給食の話題も出ました。どんどんどんどん大きくして大ロットしか受け入れてもらえない。小さく作ってもそれを受け入れてもらえないというような課題もありまして、そういうふうなところ出口をしっかりとしていくこと。

最終的に、これからは、若者、よそ者、バカ者を入れていかなあかんというご意見もありました。

以上になります。あと宣伝で、愛農高校の収穫祭が11月1日に開かれるということで、先生もみえましたので、はい、宣伝させていただきます。

以上です。

(株式会社フジヤマ)

ありがとうございました。

(アスパラガスグループ発表者)

アスパラガス班の北川と申します。どうぞよろしくお願いします。

アスパラガス班ですね、多種多様な職業の方々、少しは農業に絡んでる方、どっぷり絡んでる方、私専業のものもありました。その中でちょっといろいろお話をさせていただきました。

ただですね、行政だけにこれをやれというのは僕は違うかなあと思ってたんですよ。住民としても何かしないといけないよねっていうところもこのテーマの中に入っていないとちょっとおかしい話になるだろうなっていうところで、ちょっと心配していた部分あったんですけども。

班の中でいろいろ話出てくる中で、そういった自主性の部分も含めながら、話ができたのはよかったなというふうに思ってます。

ではですね、今回のテーマ、目指すべき将来像についてということで、農業の将来像、農村の将来像で、基本理念として伊賀らしい農業・農村の継承から広がる夢のある未来っ

ていうのを実現するために、今何が必要かというところで、話し合いました。

僕が一番最初にちょっと意見を言わせてもらったんですけど、この紙の裏っかわ。概要版。津々浦々いろんなこと書いていますけども、これぱっと見た瞬間に、これ無理やろって僕思いました。

正直、こんな人員的にこの伊賀市の役場の方々に、こんなまわせないやろうっていうの正直思っています。なので、そこで僕1個だけ提言させてもらったのは、選択と集中と先導ということをやらないと、おそらく、たちまちこの伊賀の農地と農村は荒れ果てるんだろうなというところで話させていただきました。

リーダーシップに関しましては市長さんいらっしゃいますので、どんどん旗降っていただけたらなというところで、お願いしたいところです。お願いします。

極論を言いますと、3つあります。まず1つ目。まずこの伊賀市の農業・農村というのを理解する、また夢を描けるために、やはり理解醸成はちょっと難しい言葉ですけど、理解する、実感するっていうところがやっぱり大事だなと。ゆくゆくは、それが担い手の獲得に繋がるのではないかなというところで様々な案が出てきました。

1つはね、よく言われる、やっぱりあるのは、食育、食農教育だったり体験型のそういった教育ですねっていうところ。また班の中でですね、自分たちの地域で次の後継者を育てるためにグループを作って、今取り組んでるんだっていう方もいらっしゃいました。そういった取り組みもどんどん進めていければ、こういった担い手の今後の獲得っていうところにも繋がるんじゃないかなというところで今話しています。

2つ目。インフラです。もう皆さんわかりますよね。もう起伏に富んだこの伊賀市の地形でございます。山から水路があって田んぼがあって、排水があって川があって、ね。この設備が果たして何十年前のものでしたでしょうか。60年70年前のものもいっぱいあると思います。もううちの田んぼの周りでも、排水路が崩壊していてどうしようかなというような感じになっていますけども。

それだけにとどまらず獣害対策だったり、なにせ次、若い人が農業がしやすい環境づくりっていうのをもう早急に進めないと、おそらくやばいと思います。なんせ人口が減るんですから。

先ほどもありましたけども、ベビーブームでしたっけ、その方々が退いた後、本当僕たちどんな人数でやるんだろうというのは、本当に心配します。

であれば、今のうちにちょっと整理して、やりやすい環境を整えるっていうのは大事なんじゃないかなというふうな話でございます。

そして3つ目、ブランドというところです。伊賀のブランド、様々ありますし、認証マークもあります。その認知度ももっとアップさせていかないといけないよね。もう伊賀と言ったらこれだよなっていうようなものを1個つくろうぜみたいな話も出てきました。

実際、そういったことを、ブランド化っていうのもこの地域だから、地区の特色を生かして出していく、どんどん出していくべきだと思います。

そういうことがもっといっぱいあればいいなと思う反面ですよ、ちょっと私いろいろ全国各地まわらせていただいて、いろんなこと勉強してきたんですけど、伊賀の特産物って、はっきり言って生産量少ないんです。

はっきり言って、少ないからブランドになってる部分があるんですけど、これからの時代、量の問題も絶対出てくるんです。もうちょっとその辺も選択と集中してもいいんじゃないかなというふうなことも、申し添えさせていただきました。

以上ですね、私たち、アスパラガス班の中で、これからどうしていくべきか、この3点に絞って、選択と集中と先導をお願いしますということで、まとめさせていただきます。ありがとうございました。

(株式会社フジヤマ)

ありがとうございました。

(にわとりグループ発表者)

最後の発表になります。にわとり班です。

我々のチームもですね、農業の専門家、たくさんおられる中で、私全く農業素人の人間が発表しますので、ちょっと誤ったところを言うかもわかりません。その時はぜひフォローの方よろしくをお願いしたいと思います。

それで、今日のテーマですね、目指すべき将来像ということで、農業であつたり農村の伊賀市の農業・農村ですね。これの将来像を目指すため、持続可能なですね、農業、農家を続けるためにというふうなことで、大きく分けてですね、ここに書いてあります人、それから利益、それから付加価値、それと組織ということでですね、大きく4つの分類で意見を出していただきました。

まず人ですね、他のグループの皆さんもお話出ていたと思うんですが、いわゆる担い手づくりということでもあります。

先ほどの70代のお話もあつたと思いますが、やはりこれからの若い方が農業に従事していただくためのいろんな工夫をですね、やっぱりしていく必要があるんだろうというふうなことで、いろんなご意見をいただいております。

1つはですね、若い人たちがやりたいと思うような農業にする必要がある。或いは、子どもたちですね、子どもを農業に参画してもらおうというふうなことで、いろんなイベントにですね、農業イベントに子どもさんも参画してもらおう。

子どもさんですね、いろいろお米、田植えであるとか稲刈りとかですね、そういったところを体験していただいて、苦楽をともにするといったことも必要だろうと。

それともう1つはですね、いわゆる外部からといいますか、移住者ですね。その人を、農業に興味のある方はですね、そこにそういった方を呼び込んで、後継者に育成していくと、そういったことも必要ではないかなあというふうな意見をいただいております。

それから2つ目ですね、やはり利益が上がらない農業は持続可能性がないというふうなことで、利益を生む農業にする必要があるということです。これが最終的な結論になる

かもわかりませんが、農業一本で食べていけるようなシステムを作る必要があるということで、これ僕、農業の素人なんで、そのシステムがどういうものなのかっていうのはちょっと理解できないところがあるんですが、そういったところ市の行政であったりですね、それから農業団体、そういったところでいろんな工夫をしていく必要があると。儲かる農業ですね。

例えば、お米一本で生活していくためにはどうしたらいいかというふうなことをですね、やはり真剣に考える必要があるんじゃないかというふうなご意見をいただいております。

それから、例えば私、島ヶ原に住んでいるんですが、いわゆる山間地の農業ということで、大規模な農業はできないんです。小規模でも儲かる、どうしたら儲かるかというふうなことを考える必要があるというふうなことで、次のテーマにも関係するんですが、量が少なくても利益が出る、いわゆる付加価値の高い農産品ですね。これを作っていくというのも1つの考え方かなというふうなことが1つ。

それと、面白い意見が出たんですが、例えばですね、VIP向けに、お金持ちの方向けに単価の高い農産品を売り込むというふうなことで、利益を上げるというふうなご意見もあります。

非常にユニークな意見だと思うんですが、従来の発想と違ったですね、高単価品をブルジョア向けに売るというふうなこともですね、1つの方策かなというふうに思います。

それと、その次が関連すると思うんですが、付加価値の問題です。他のチームにも出てましたが、いわゆるブランド化というの大きなテーマかなというふうに思うんですが、他のチームに出てました、例えばパン食をお米に変える。学校給食も然りですね。そういったところで、小麦アレルギーがアレルギーの方にも対応できる米粉への変更であったりですね、そういったところですね、給食に米粉パンを導入するとか、そういったところの意見ですね、出ております。

それと、朝食の代替に、これも米の加工品ですね、この面白い意見出たんですが、おにぎり、伊賀米のおにぎりをですね、手裏剣型にして、具に伊賀牛のしぐれを入れる。こういったものを商品化する。これも非常に面白いアイデアと思うんですが、ぜひ、興味のある方はぜひ実現していただければというふうに思います。

それで最後なんですが、やはりこういったことをですね、きっちり実現していくためには、そういう体制づくりですね、組織づくりが必要だというふうなことで、これ大山田畜産が30年ぐらい前からですね、そういう組織をきっちり作って推進していくことによって、いわゆる荒れた農地も少ないというふうなお話を伺います。

ということで、地域で体制を作るのがいいのか、或いは市全体で作るのがいいのかですね、僕もよくわからないんですが、やはりそういう本当に、僕は住民自治協の団体で、単位でですね、そういうのを作って、そういうふうなシステム、組織を固めて、システム化していくというふうなことが必要なのかなというふうに感じたところです。

それでは、にわとりチームの発表を以上で終わらせていただきます。

ありがとうございました。

(株式会社フジヤマ)

ありがとうございました。

そうしたら、すべてのチーム発表が終わりました。

皆様のおかげでたくさん意見が出て、活発なワークショップになったと思います。ありがとうございました。

(吉福農業振興課長)

皆様、ワークショップお疲れ様でございました。

皆様の発表を聞いてたくさんのご意見等々、また担当課としても受けとめさせていただきながらですね、計画の最終案に向けてまた進めていきたいと思っております。

本当にたくさんの時間頂戴いたしましてありがとうございました。

ここで野中委員長より、一言ご感想をいただきたいと思いますので、野中委員長よろしくをお願いします。

(野中章久委員長)

どうもご苦労さまでした。ありがとうございました。

なんかね、整理の仕方とか、論点の開示とか、何かこういう人たちの前に大学教授でございまして立つのがなんか怖いなっていうぐらい、すごくシャープな論理だったプレゼンテーションだったんで、非常にちょっとドキドキしてますけども。

思い起こせば、僕、農研機構っていう農水の研究所にいたんですね。菜種関係で1回調査を担当していたんで、教えてねって呼ばれたんですよ、菜種関係で。基本的にそういうときって、どういう依頼かっていうと、よくわからないけど売り方教えてみたいな話なんですね。

要するに、農業経済って、農村の経済って要は資本主義経済に対して、自給的な色彩が強い農業ってのは対応しきれないようなところがあって、それで、市場ってどうなってますかねみたいな話が多いんですよ。

そういうのかなと思って来たら、伊賀でとにかく直面したのが、いやこの人って俺より資本主義わかってるいよねっていうことで、なんか僕が言うことないんですけどみたいな体験したんですけど、全く同じ感想を今持っていて、非常にすごいなっていうふうに、有意義な時間をいただきましたと思いました。勉強させていただきました。

一応講評ということなのですが、委員長としてではなくて、農業経済やってる人間としてコメントをします。

最後に、委員長としての立場でどういうふうにするかってことを述べたいと思います。

全体的に、非常に面白かったんですが、論点として出た、共通していたのが自給領域、自給経済を、自給自足的なね、要するに家庭菜園のちょっと延長みたいな形の農業も大事にしなきゃいけないんじゃないかっていうご指摘が共通してあったんですけど、僕全く

同じ考えでですね、さっき資本主義経済っていう話をしたんですが、大枠で言うと、人間の生活全部を資本主義が包摂することは不可能であるというのが、実は資本主義が大好きな経済学者も資本主義が大嫌いな経済学者も共通した認識なんですね。

だから、自給的なところってのは本当に大事なんですよ。要は、あまり、もうエクストリームの資本主義大好き経済学者は、いいじゃん別に、輸入すりゃいいじゃんみたいな感じで言うんですね、言ってたんですよ、かつて。

例えばこう例示してね、今僕このハンバーガー食ってるけども、小麦はロシアから、肉がオーストラリアから、素晴らしいじゃないかみたいなこと言ってたんですけど、それがそうだねって、安いね、おいしいねっていう、当時は、それがもうなんかよかった。1990年ぐらいがピークだったんですけど。まあ、でもそれやるとですね、見ろよアメリカって、どうにもなくなくなって、トランプさんみたいな人が出てきちゃうじゃないかっていう話になるわけですね。

だから、自給経済、自給領域が大事だっていうのは、実は委員会の中でも非常に、資料にもあると思いますけども、共通してます。

もう1つね思ったのは、ちょっとその拡大版で、地産地消、すごいフレーズとして、地消地産と言われて、なるほどって、今日いただきましたとは言いません、使いませんが、衝撃を受けました。

自分たちで食べるのを作るっていうのは、これ実はですね、こないだ平木さんのところで調査にお邪魔して、大変な手間をいただいて、協力して原稿書いてあるんですね、土地と農業という本かな、に書いたんですけど、僕新しく提唱してるのが、玄米経済頑張ろうぜっていう話で、お米に関して言うと、この国にはですね、玄米経済と白米経済があるんですよ。売られているのは、白米なんですね。米騒動だったら、白米が不足したんすよ。玄米は不足してないんですよ。

当たり前ですよ。皆、分けてもらったりとか、僕は津市美里の足坂って集落に住んでんですけど、何となく60キロで3万円弱ぐらいで売ってもらっちゃってて、全然困らないんですね。だからそういう人たちは困らないんです。玄米経済困らなかったんですね。

だとすると、玄米経済拡大すると、実は農業やってる人にとってもいいことがあるはずなんですね。だって、白米にするコストかけなくていいじゃん、その割には僕が買ってるみたいに、60キロ3万円ぐらいでも安いねって言ってくれるっていうね、庭先価格と比較してくださいよっていう話になりますね。

消費者大丈夫なのって言ったら、いやいや、よくよく見たら、コイン精米機あちこちあるじゃないですか。だから、玄米経済を考えるっていうのは、1ついいねっていうのは、実は僕の持論です。一致してたのでうれしかったです。

ちなみに、生産量の話を考えろっていうご指摘もあって、やっぱりすごいな、シャープだなと思ったんですけど、伊賀米はブランドなんですけど、実は流通圏で考えると県内中心で、西の方は大阪まで行きますが、東の方はあんまり出てないんですよ。

だから、実はですね、地域内に需要者っていうか消費者がいるはずなんですね。非農家が増えれば増えるほど、彼らお客さんなんですね。

だからその辺をとらえていくってのは、1つの戦略として。具体的に言うとそれはあるんです。ちょっとそういうのに繋がっているんで、ちょっと僕の考えてることをパパッとってもらって、考えてないこともってもらったので、非常に僕は、今日は非常にいい機会に恵まれたと思います。

売ってかなきゃいけない、稼がなきゃいけないって話も出ていました。今回の計画との関連でいくと、計画は基本的な振興政策なので、具体個別のことも書いてありますけれども、それは、枝というかその下位にかかる実行プランの中で実現していくことになるような建て付けではないかなというふうに思ってますので、そこで例えば、富裕層向けの、これも個人的な感想ですけど、ブルジョア向けに売ろうって、ブルジョアって言葉をですね、何か大学院時代に最後に聞いて以来って感じがして、ちょっと血が騒ぎましたけども、そういう戦略も当然あるんですが、それは下位にあるプロジェクトで実行してくっていうふうな建て付けとして理解していただきたいなというふうに思います。

逆に言うと、今日の講評としてっていうか、全体の印象としては、我々が議論していることと、すごく一致しているんじゃないかなと思ひまして、なおかつ我々が議論できなかった領域も今日ご意見としていただいたというふうに思います。

これから完成、今中途段階ですけども完成に向けて、委員さんたちと協力して、いいものを作っていきたいというふうに考えております。

今後ですね、どういうものになっていくかというのは、パブリックコメント、ネットで公開とかっていう機会もありますよね。それでご確認いただけるようになりますので、ぜひ注視していただいて、ますますなんていうか、ご意見いただければというふうに思います。ありがとうございました。

(吉福農業振興課長)

野中委員長ありがとうございました。

それでは最後に、伊賀市長稲森稔尚よりご挨拶をさせていただきます。

(稲森市長)

皆さん、本当にありがとうございました。

2時間という時間が、こんなにあっという間に過ぎてしまうものなのかっていうふうに思うくらいですね、様々な立場の皆さん、様々なタイプの皆さんと言ったらいいか、様々なタイプの農業されている皆さんも含めていろんな思いを、もっと皆さんがこうやって議論をしてまとめていただいて、とても有意義な時間を私自身も過ごさせていただいたというふうに思っています。

後で今後の進め方を簡単に説明させていただきたいんですけども、ご意見の中で、少しだけ紹介もさせていただきたいなということを幾つか説明をさせていただきたいと思っています。

子どもたちの学校給食のことなんですけれども、ご存じの方もいらっしゃるかと思いますけれども、いがスマイル給食っていう伊賀産の食材を使った給食を増やしたんです。予算も、今2,000万ぐらいになってますかね、大分増やして、最初、月1回ぐらいしかなかったのを、今3回ぐらい学校の方で実施をさせていただいたりとかですね、そんなことも、もっともっとこれから充実をさせて、子どもたちに伊賀の食っていうものをもっと伝えていきたいなというふうに思わせていただきました。

そして今、ちょうど大募集しているのが、地域おこし協力隊の方を営農組織に参画をしてもらおうということで、7月21日まで募集をしています。

応募なかったらどうしようっていうふうに思っていたんですけども、嬉しい感じで、たくさん問い合わせがあつてですね、特に都市部からとかですね、大学生が学校を休学をしてまで来たい、挑戦したい、チャレンジをしたいっていう方もいらっしゃるってことで、やっぱり先ほどのお話もありましたように、関係人口みたいなことも含めて、やっぱり繋がりをつくって、伊賀で農業が挑戦できるっていうことを後押ししていきたいというふうに思います。

そして、さらにブランド力を高めていくとか、生産量がまだまだ少ないんじゃないかっていうようなお話の中で、おにぎりっていう話が出てきたので、それも紹介をさせていただきたいんですけども、伊賀市はこのたび、おにぎり協会、全国のおにぎり協会というところに、参画をさせていただきました。これ、どこの自治体でもはいれるっていうことではなく、割と選ばれる、選ばれたということなんですけれども、例えば有名なところだったら、南魚沼市っていう。出てくるんですね、いろんな、お米ですね、新潟のコシヒカリ、大間、青森県の大間はマグロが出てきたりとかですね。あとは羅臼、北海道の羅臼も入っているんですけど、昆布だったり、伊賀は何で入ったかっていうと、何だと思いませんか。忍者で。食べれないやんていう感じなんですけども、でもやっぱりこういう物語、伊賀の特性を大事にしながら、食、食べることにつなげていくっていうことが本当に大事なあとというふうに思ったので、先ほどいろんなアイデアをいただいたのでやっていけたらなというふうに思いました。

石川県では、おにぎりの化石っていうのを切り口にして参画をした自治体もあるそうなので、こういう、外へどんどん発信をしていくっていう取り組みも進めていきたいというふうに思います。

特に、選択と集中っていうのはおっしゃる通りで、その中で、これからですね、令和9年に向けてやはり担い手の確保や人材育成ということで、伊賀市の農業アカデミーっていうようなそんな構想もひそかに持っていますので、また皆さんにお示しをさせていただいて、そこでいろんな技術とか、そして経営とか、そういうことを学べる、そしてそのことを儲かるような農業につなげていけたらいいなというふうに思います。

それから、農業の分野だけでこれだけのことを取り組む、市役所の農業振興課だけでこれだけのことを取り組むというのは到底無理で、やっぱり市役所の中でも、まさにまちづ

くりとして、横断的に、ここだけの仕事だけじゃないってというような、市役所全庁でやっば取り組んでいく、まちづくりとして取り組んでいくってということがまさに、大事だなというふうに思わせていただきました。

今日いただいた貴重な意見を基にですね、これから中間案を作り上げていきたいというふうに思っています。そして、11月にはまた改めてパブリックコメントをとらせていただいて、いよいよ12月にはこの夢のある農業振興計画が完成をするということになってこようかと思います。

あらゆる人に、この計画を今作っているんですよっていうことを、参画をしてもらったり、伝えていくっていうのが最初から大きな課題だなっていうふうに思わせていただきました。

お米が高くなっているからなあってというような話もありましたけど、そうじゃなくって、農業に対する理解を深めていくっていう意味でも、あらゆる人に深めていくっていう意味でも、さらにこの夢のある農業振興計画を今作っているんだよっていうことを、さらにさらに、ここからパブリックコメントのプロセスの中でも伝えて、精一杯伝えていって、多くの皆さんを巻き込んでいきたいなというふうに思います。

どうぞこれからもよろしくお願いいたします。今日は本当に貴重なご意見をいただいて、参加をいただいて、本当にありがとうございました。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(吉福農業振興課長)

それでは最後に、アンケートへのご協力のお願いでございます。

本日椅子のところにですね、伊賀米と記載のある白い袋の中にですね、アンケート用紙があるかと存じます。本日のタウンミーティングの感想ですとか、計画案に関するご意見等ございましたら、アンケート用紙にご記入をいただき、出口に備え付けの回収箱に投函の方をお願いいたします。

また、受け付けでお渡ししました名札につきましても、お帰りの際机の上に置いていただきますようお願いいたします。

また本日ですね、今発表いただいた模造紙に書いていただいたものをですね、壁側の方にも掲示してございますので、またご覧いただければというふうに思います。

それではこれをもちまして、伊賀市夢のある農業振興計画タウンミーティングを終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。お忘れ物のないよう、ご確認いただきお帰りください。

(午後4時37分 閉会)